

# 介護サービス 負担増の不安

保険制度見直し議論「年金でまかなえるのか」



女性の元夫は、一人暮らしが難しくなったことで、10月に特別養護老人ホームに入居した=東京都葛飾区

3年に1度の介護保険制度の見直しで、介護サービス利用時などの負担増が議論されている。社会保障費を抑制し、制度を持続させるためとして、繰り返されてきた負担増。今回は歴史的な物価上昇とも重なり、当事者には不安が広がっている。

「彼も慣れていたようだ  
けれど、お金の心配  
です」

今月上旬、特別養護老人ホーム・葛飾やすらぎの郷（東京都葛飾区）女性（69）は、離婚した元夫（72）の日々の様子を聞くため、元夫が喜びすじの特養を訪れ、不安を口にした。

約20年前の離婚後ずっと一人暮らしだった元夫は、脳出血の後遺症で高次脳機能障害や左半身の麻痺などがあり、直近の要介護認定で要介護度が4に。1年以上上の順番待ちの末、10月にこの特養に入った。

元夫は自ら判断をすむ」とが難しく、親族や子ども支援できぬ。離婚後も連絡を取っていた女性が約10年前から成年後見人を務め、財産管理や身上保護を担う。

飲料会社の経営などにかかわった元夫の年金は月約17万5千円、年間で約210万円程度。今の所得では介護サービスの自己負担は1割で、特養で受けた介護

## 「2割になれば利用控え」の声も

サービスの自己負担が月に

約3万円。食費や部屋代なども別途あり、あわせて月

約8万6千円だ。このほか年金からの医療や介護の保険料などを払っても、多少は余裕があると思っていた。

しかし、厚生労働省が議

論を進めている介護保険制度の見直しでは、自己負担が2割となる基準を、現状（単身者の場合で年間所得280万円以上など）よりも引き下げる「2割」が論

議と上がっている。

元夫の場合、2割になる自己負担分は月約6万円に。自己負担の額が、所得を超えた場合に払い戻される制度を使っても、月1万4千円程度、年に17万円ほど負担が増える計算だ。

女性は「介護保険で払うお金が増えれば、急な入院や冠婚葬祭などの出費を本人の年金でまかなえるのか」と懸念する。血のむ脳梗塞があり、障害年金など月約10万円の収入で暮らす。「私が金銭的に支える

のは難い」

この特養の事務長、小又織穂さん（40）は「介護費用

の負担が過度に増え、交際費などの余裕がなくなれば、社会参加にも影響する」と懸念する。

在宅介護の現場にも危機

感が広がる。日本デイサービス協会（本部・東京）は5～6月、加盟事業者のサ

ービスを利用する人や家族にアンケートし、3018人から回答を得た。仮に自己負担が2割に増えた場合、デイサービスを「今どきわりなく利用する」と答えた人が約47%いた一方で、「利用回数を減らす」「利用を中止する」「時間

を短くする」など利用を見直すとした回答も計30%ほどであった（複数回答）。

同協会理事長で、デイサ

ービスなどを運営する森剛士さんは「負担増が利用控えにならなければ、本人の自立を支援しようとする介護

保険の理念が達成するだけではなく、孤立も懸念される」と指摘する。

入りは珍しい。

同協会理事の鈴木森夫

さんは、負担増の結果、「サービスの利用を自立、やめる」などとなり、認知症の人や家族の生活にも影響する」と指摘。介護する家族の生活にも影響しきねない」と指摘。

「車を廻りたい」と流れを変えて。安心して使える介護保険であつてほしい」と語る。

オンライン署名は「Change.org」の「介護保険・負担が2倍で使え

る「認知症の人と家族の会」（京都市）は、負担増反対の署名を今月末まで募り続けている。「自己負担2倍」などのキーワードで検索すると、ツートップでの拡散を呼びかけたもの、一部のワードがツイッターでトレンド入りした。介護の話題のトレンド

（畠山謙子）